

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report!?

D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
ニュースレター 第12(2004. 3. 10)

測り知れない喜びについての一瞥

昭和大学医療短期大学看護科
助教授 高橋 美紀

「この苦しみからどうやって逃げたらよいのだろうか?」、「この苦しみをどうやって耐え抜けばよいのだろうか?」と、毎日毎晩、苦悶に喘いだ日々が私にもありました。そして、(正直に打ち明けますと) 現在も同じ状況にあります。苦しみから逃げることもできないし耐え抜く自信もなく、苦しみに晒されているしかない時に、よく読むのが次の文章です。

個々の苦しみの原因は、人間の能力を働かせることによって時がたつにつれて消えていく。われわれは、もし人間がその能力をこれまでとは異なった使い方をすれば、他の苦しきもどんなに消えていくかと考えてみる事ができる。人間の能力を活用することによって喜びが大いに増大することが、すでにある方向ではじまっている。そしてここでもまたわれわれは人間が到達できる測り知れない喜びについて一瞥することができる。

このように見えてくると、高位の意志は、人間にもてる力を働かせることによって苦しきから幸福をつかみとられるつもりであると思えないだろうか。

フロレンス・ナイチンゲール著、薄井坦子訳: 思索への示唆(1巻1章)、ナイチンゲール

ル著作集第3巻, p 153, 現代社, 1977.

以前（約6年前）は、この文章を書いていた時の若き日のナイチンゲール、看護の道に進む前のナイチンゲールのことを思い描きつつ、この文章を読んでいました。彼女は物質的には恵まれていたけれど精神的には満たされず苦しかった時代にも、自分のもてる力を使いたいと切望しつつ生きていたのだなど。そして、彼女がもてる力を働かせて苦しみから喜びに至る過程に、看護という仕事の確立と看護学という学問の萌芽があったのだなど。

そして現在、私が何かに縋る思いで上述の文章を繰り返し読み返す時に思い描くのは、著者であるナイチンゲールのことだけではありません。この数年間で出会うことができた大勢のダルクのスタッフの方々のことを、ナイチンゲールと共に思い描いてしまうのです。

ダルクのスタッフの方々の回復過程を辿っていくと、個々のスタッフの「苦しみの原因」も、個々のスタッフの「能力を働かせることによって時がたつにつれて消えていく」ことが手に取るようにわかるのです。そして、「高位の意志」をハイヤーパワーと読み替えれば、ハイヤーパワーは、薬物依存症者たちに「もてる力を働かせることによって苦しみから幸福をつかみとらせる」ように働いているのだと了解できるのです。仲間の病院受診のために車を運転すること、施設内の細々とした事務仕事をこなすこと、「退寮したい」という仲間の話にじっと耳を傾けること、薬物依存者の裁判があれば情状証人として自分の体験を法廷で話すこと……全てが「もてる力を働かせること」につながっています。

今まで築いてきた多くのものを薬のために失っていく過程で、私にはおそらくは想像もつかないであろう苦しみに死まで考えた方々が、スタッフという役割を「高位の意志」ならぬハイヤーパワーによって与えられ、仲間の生活と施設の運営とを支えるための日々の営みに自分のもてる力をはたらかせていくうちに、苦しみから喜びに至る過程……この過程の本質は、苦悩に満ちた青春時代のナイチンゲールが看護の道に邁進していった過程の本質とぴったり重なる私には考えています。大袈裟な物言いが許されるのなら、「ダルクの方々の回復過程の中にナイチンゲールの思想の本質を発見した」と言ってもよいのでしょうか、さて、いかがなものでしょうか？

私も、看護と看護学を仕事として与えられた者の端くれとして、そして、ダルクの方々から沢山の「学び」と「気づき」を与えられ続けている者のひとりとして、ナイチンゲールのように、そしてダルクのスタッフの方々のように、もてる力を働かせることによって、「今」という時を乗り越えられればとハイヤーパワーに祈っています。

1 年を振りかえって

依存症のデン

磐梯から那須に移動してきて一年が過ぎ、振り返って考えてみると色々な出来事がありました。

去年の冬 2 月 2 日大雪の中、引越に使っているトラックが雪と氷で坂を上らず、スコップやツルハシ等で雪かきをして荷物を建物の中に入れて一安心したかな~と思うと、今度は水道が寒さのあまり凍りついて水が出ないとか、一時はどうなる事かと思いましたが、地元の支援者の協力によりすぐに直していただき、普通に生活ができるようになりました。

それから春になり、しいたけ栽培のために雑木林の中で地元の指導者が伐ってくれた、ほだ木（原木）を山林や足場の悪い谷の底からパトンリレーしながら集め、落ち葉を集め、草刈をして、菌付けの準備をしました。

菌付けの作業当日はあまり天気には恵まれませんでしたが大勢のオーナーの方々が参加してくれて、普段とは違った感じで楽しく作業することができました。

施設に入寮してあまり体を動かさなかった自分にとっては、とても重労働に感じましたが、ある意味とても心地が良い疲れだった気がします。



夏には、地元の沼ッ原湿原にハイキングに行ったり、磐梯の仲間と合衆で茶臼岳に登山に行ったりしてした事もありました。

茶臼岳登山の時は「ああ~山登りか、疲れるな・・・」とため息をつきながら登り始めたのですが、だんだんと山頂が近づくにつれ、あと少し、もう少し、と自分自身に言い聞かせて頂上に到着し、下界の景色を眺めながら仲間達とおにぎりを食べ、下山して帰りに天然の露天風呂に入ってきた事もありました。

秋には、施設の引越して黒磯と那須を何回も車で移動して、荷物を入れたり掃除をしたりして落ち着かないうちに、10月にクリーン2年を迎えることが出来ました。

その後も、クリスマスプレゼントとして支援者からゴスペルのチケットをいただき、クリスマス日に生ライブに行ったり、教会のクリスマス・ミサに参加したり、家族会の方々と餅つきをしたり、正月を仙台の仲間や、磐梯の仲間と迎えたりと、この1年を振り返って考えてみると、色々な人達に支えられて生きているんだなという気づきをくれた1年でした。



大勢の仲間や支援者に感謝しています。

支援会員募集のお知らせ

昨今、社会問題の一つとして若年層者の薬物使用の増加が叫ばれています。薬を止められなくなってしまった人達の回復の場として、那須ケアセンターは薬物乱用防止の一役割を担っていると自負しております。

しかし、いまだ補助制度の利用が出来ない状態なので、皆様のご協力が必要です。ぜひ支援会員となって薬物依存者の回復にご協力下さい。

年会費一口五千元より ※別紙払込表でお申し込みお願いします。
また、現在施設維持費及び整備費が不足しており運営が軌道に乗るまでの間皆様の末永い支援をお願いいたします。

週間プログラム

日	土	金	木	水	火	月	曜日 時間
起床 7:20 ・ 朝食 7:30							
● セルフケア	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ● ミーティング スタッフ ミーティング	午前(九時～十時半)
	作業班・調理班の仕事・昼食 等						
	● セルフケア	● オキユベイシヨナル プログラム (山林作業・パソコン)	● ● ステップミーティング コン・ゲーム	● スポーツプログラム (那須S.C.スキー・スノボ)	● ● ハウス ミーティング 洗車		午後(一時半～三時)
夕 食							
● 須賀川カトリック教会 (第一日曜日)	● センター	● 大田原カトリック教会	● センター	● 那須カトリック教会	● センター	● ● 松が峰カトリック教会 (宇都宮) 郡山細沼教会	NAミーティング
就 寝 23:30							



去年のほだ木

献金、献品を下さった方々

岡田三男様 佐藤忠雄様 高橋美紀様 栗原亜希子様
荻野祥子様 向井勝實様 鈴木洋子様 飯島博様
高橋一二様 船生芳男様 飯島博様 鈴木鈴代様
腰高和秀様 那須ケアセンターを支援する家族会様
カトリック鹿沼教会様 カトリック白河教会様

匿名四名様

那須ケアセンターに運営資金ならびに献品を戴き心より感謝しております。いつもお願いばかりで心苦しいのですが、この一年間毎日頑張ってくれた掃除機の調子が良くありません。センターは部屋数も多いため一台では無理が在ったのかと思います。出来れば掃除機の献品を頂ければと思いますどうぞ宜しく御願ひ致します。(出来ればコンパクトサイズでお願いします)



D.A.R.C 那須アディクションケアセンター
〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙 3227 番地 2

TEL 0287-77-7157 FAX 69-7158

Eメール n-cc@mte.biglobe.ne.jp

ホームページアドレス <http://www5f.biglobe.ne.jp/~NACC/>